

一般社団法人 日本生態学会

2022 年度 第 2 回通常理事会

1. 日時：2022 年 7 月 2 日（土）13:00～17:46
2. 場所：ビジョンセンター田町 405 室およびオンライン会議（Zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）
（理事）宮下直、北島薫、大塚俊之、佐々木雄大、本庄三恵、久米篤、木村恵、村岡裕由、吉田丈人、鏡味麻衣子、佐竹暁子、日浦勉、酒井章子、工藤岳、小泉逸郎、鈴木牧、中野伸一、和田直也
 - ・監事：永松大、瀧本岳
 - ・オブザーバー：鈴木準一郎、永光輝義、小池文人、細将貴、立田晴記、赤坂宗光、辻かおる
 - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 18 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い宮下直会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、宮下直会長、永松大監事、瀧本岳監事とし、議事録作成者は大塚俊之専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて大塚専務理事より庶務 5 件の報告と、会計 9 件の報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料 2 に基づいて鈴木編集長より 2021 年の Impact Factor が上がったこと（ただし、生態学分野の他の雑誌も同様以上に数値が上がっているため同分野内での順位は低下傾向）、日本からの投稿が多いこと、特集の進捗、Data Article への変更について報告があった。
 - ・特集を増やすためアイデア募集の呼びかけがあった。
3. 日本生態学会誌編集委員会報告
 - ・資料 3 に基づいて永光編集長より発行状況と編集状況の報告があった。
 - ・今年 12 月が編集長交代時期となるため、次期編集長を選定中。

4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・資料4に基づいて小池編集長より刊行状況、編集状況、剽窃チェックを開始したとの報告があった。
- ・2020年からのオープンアクセス化の影響について以前より投稿数は増えているが会員外からの投稿は増えていないとの報告があった。
- ・データリポジトリとして J-Stage Data を運用できるよう準備を進めている。
- ・オンライン化により受理後のオンライン編集業務が増えており、将来的には和文誌の編集業務を担える若手を雇用していきたいとの意見があった。

5. 大会報告 (ESJ69、ESJ70・71 準備状況)

- ・資料5に基づいて大塚専務理事より ESJ69 について大会参加者数が2712名であったこと、収支についてハイブリッド開催を1か月前に完全オンライン開催としたことで約570万円の黒字となったとの報告があった
- ・資料5に基づいて細大会企画委員長より ESJ70 準備状況について、ONLINE CONF を使用すること、口頭発表の動画ファイル事前アップロード、ポスター賞審査方法、仙台会場の準備状況等の報告があった。
- ・資料5に基づいて鏡味理事より ESJ71 についてハイブリッド開催で準備を進めているとの報告があった。

6. 各種委員会報告

<キャリア支援専門委員会>

- ・資料6に基づいて木村理事・鈴木理事より「女子中高生夏の学校」への参加について、大会 CPD 単位発行について、将来計画委員会との連携推進についての報告があった。
- ・大会での CPD 単位発行について前大会でニーズがあったため次回大会では範囲を広げて実施したいとの意見があった。また5年おきに実施している大会参加者属性調査のため ESJ69 参加者データを使用したいとの要望があった。

<生態系管理専門委員会>

- ・吉田理事より調査・提言部会では保全誌に提言論文を投稿中であること、キャンパシティブルディング部会では OECM に関する勉強会を実施したこと、委員会として再生エネルギー検討作業部会のサポートが可能なが

報告された。

<情報交流支援>

- ・資料 6 に基づいて村岡理事より Jeconet 管理運営状況、委員会体制について公募での委員補充を検討していること、学会サーバー保守契約の継続について報告があった。

7. INTECOL 報告

- ・資料 7 に基づいて村岡理事より INTECOL 会費（2018 年からの未払い分）について遡って支払う必要がないこと、INTECOL Board の活動状況について運営改善に向けた準備がなされていること、Board メンバーの改選、事務局体制について報告があった。

8. その他

- ・北島副会長より学術会議報告として、より学際的な活動を進めるため、カーボンニュートラル連絡会議や国際基礎科学年連絡会議が活動しており、また、助言機能の見直しなどが行われていることが報告された。
- ・資料 8 に基づいて大塚専務理事よりパートタイム昇給について検討していることが報告された。
- ・木村理事より男女参画学協会連絡会幹事会 TF について、今年 10 月より幹事学会となるため準備が進んでいることが報告された。

審議事項

第 1 号議案 大会について (ESJ70 大会参加費)

- ・資料 5 に基づいて大塚専務理事より ESJ70 予算の説明があり、ESJ70 大会参加費はオンライン大会として準備・開催した ESJ68 と同程度にすることを理事会として企画委員会・実行委員会に提案することになった。

第 2 号議案 賞新設について

- ・資料 9 に基づいて宮下会長より会員から出された新たな賞の提案について説明があったが、議論の結果、賞の目的、対象、評価方法等について提案者と再検討し、次回以降改めて審議することとなった。

第 3 号議案 委員の承認について

- ・資料 2 に基づいて鈴木 ER 編集長より新 ER 編集委員の提案があり全会一致で承認された。

- ・資料 5 に基づいて細大会企画委員長より大会企画委員の追加提案があり全会一致で承認された。
- ・資料 6 に基づいて木村理事よりキャリア支援専門委員会オブザーバー1名の追加提案があり全会一致で承認された。

第 4 号議案 ER 投稿規定改訂について

- ・資料 2 に基づいて鈴木 ER 編集長より投稿規定改訂の提案があり全会一致で承認された。

第 5 号議案 英文誌科研費申請の方針、出版契約更新について

- ・資料 10 に基づいて久米理事より説明があった。
- ・2024 年以降 Wiley 社と 3 誌の出版契約の更新方針が全会一致で承認された。
- ・科研費申請について ER もしくは PE で「国際情報発信強化 (B)」にて申請する方針が全会一致で承認された。
- ・PSB について「オープンアクセス刊行支援」にて科研費申請する方針が過半数の賛成で承認された。

第 6 号議案 「教養の生態学 (仮)」印税について

- ・資料 11 に基づいて宮下会長より説明があり、「教養の生態学」の印税について初版は執筆者に支払い、その後は学会に支払われることが過半数の賛成で承認された。

第 7 号議案 自然保護専門委員会作業部会の設置について

- ・資料 12 に基づいて和田理事より説明があり「再生可能エネルギー事業対策作業部会」の設置と部会メンバーについては自然保護専門委員会に一任することが全会一致で承認された。

その他

- ・久米理事より英文誌 OA 補助についてアンケート結果から学会員からの要望が高いと説明があった。次回理事会にて議論し次年予算を検討することになった。
- ・宮下会長より 12 月開催のイギリス生態学会に ESJ の宣伝ブースを出展することについてアナウンスがあった。

閉会：以上の議事を終え、17 時 46 分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2022年7月2日

会 長 : 宮下 直 ⑩

監 事 : 永松 大 ⑩

瀧本 岳 ⑩